

科目名	環境社会学			ナンバリング	soc162	授業形態	講義
対象学年	3	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	高木竜輔	担当教員					

授業の概要	この授業では環境問題を社会学の視点から理解するための知識ならびに分析枠組みの習得を目的とする。21世紀に入って環境問題が重大な社会問題として認識されるようになった。持続可能な社会をいかに維持していくかが、グローバルレベルでの課題になっている。加えて、福島第一原発事故により福島県は未曾有の公害被害を受けている。 この授業では、これまでの環境問題の発生や対応の歴史について理解するとともに、環境問題についてどのように考えたらよいか、そして原発事故に対してどのように考えればいいのか、その指針としての環境社会学の視点・考え方について理解し、応用できるようになるのが目的である。						
到達目標	1. 社会が抱えている環境問題について概要を把握し、それを社会システムのしくみから理解し、説明することができる。 2. 環境社会学の理論を身の回りの環境問題へ応用し、説明することができる。 3. 実際に自らが環境問題についてテーマを設定し、環境社会学の理論を用いてレポートを書くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	授業で出てくるキーワードについて、新聞や辞書などを通じて知識を得ておくこと。加えて、授業後には、参考文献で示している文献などを通じてさらなる理解を深めること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. さまざまな環境問題について関心をもち、それについて理解することができる。 2. 環境社会学の基本的な理論について理解することができる。 3. 人間と環境との関係について、具体的な文脈のなかで理解することができる。	1. さまざまな環境問題について関心をもち、それについて批判的に理解することができる。 2. 環境社会学の基本的な理論について理解し、それを現実の環境問題の理解に当てはめて理解することができる。 3. 人間と環境との関係について、具体的な文脈のなかで理解し、その上でその歴史的背景についても理解することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
最終レポート	○	○	○				60%
小テスト・授業内レポート	○	○	○				10%
宿題・授業外レポート	○	○	○				10%
授業態度・授業への参加			○	○			20%

課題、評価のフィードバック	1. 授業ごとにリアクションペーパーを書いてもらう。疑問点や感想を書いてもらい、次週の授業でコメントする。 2. 学期末レポートについては、コメントをつけて返却する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション——授業の進め方・授業の仕方	講義の進め方、受講に際しての注意点について理解する。授業支援システムの使い方について理解できる。	
	第2回	環境問題の社会史(1)	日本の事例を参考に、主として高度経済成長期までの環境問題の歴史を理解できる。	
	第3回	環境問題の社会史(2)	高度経済成長期以降の時期における、公害から環境問題への歴史的变化について理解できる。	
	第4回	水俣病——戦後最大の公害	戦後最大の公害といわれる水俣病について、映像資料を用いながらその歴史的経緯を理解できる。	
	第5回	環境問題と被害のメカニズム——「被害」とは何か	水俣病の事例をもとに、被害の多元性ならびに被害がどのように作られるのかを被害構造論を用いて理解できる。	
	第6回	映画『柳川掘割物語』鑑賞	映画『柳川掘割物語』を鑑賞し、柳川市における住民と掘割との関係について理解することができる。	
	第7回	人間と自然との関係——生活環境主義という考え方	先週の映画をもとに、田園風景や森林についての事例を参考に、自然環境主義とも近代技術主義とも異なる生活環境主義という考え方について理解できる。	
	第8回	社会的ジレンマと環境問題	共有地の悲劇を学ぶことで社会的ジレンマ論について理解する。その上で環境問題に関する社会的ジレンマをどのように解決していけばいいのかを理解できる。	
	第9回	市場経済と環境問題(1)	ハイブリッドカーなど近年の環境問題への対応をエコロジー近代化という視点からとらえ、その可能性と限界について理解できる。	
	第10回	市場経済と環境問題(2)	海外における開発や公害による環境問題について取り上げ、それらがわれわれの生活といかに関連しているのかについて理解できる。	
	第11回	気候変動とエネルギー問題	気候変動や原発事故をきっかけとしてエネルギーのあり方が問われるようになったが、そのこと巡って社会がどのように変動しているのかを理解できる。	
	第12回	見えない環境問題——放射能・ダイオキシン・遺伝子組み換え作物	放射能やダイオキシン、遺伝子組み換え作物を事例として、見えない環境問題をリスクの問題として理解することができる。	
	第13回	リスク社会の誕生——我々はどんな社会を生きているのか	近年の環境問題を理解するための考え方としてのリスク社会論について理解することができる。	
	第14回	原発事故を考える——被害と地域再生の課題	福島第一原発事故を具体的事例に、さまざまな被害と地域再生の課題について理解することができる。	
	第15回	まとめ——身近な環境問題を考える	これまでの議論を整理し、今後の生活において環境問題を考え、その解決に向けて実践していくための方法について理解することができる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答に基づき授業をおこなう。授業終了後にはリアクションペーパーを執筆してもらい、翌週の授業でそれに対してコメントする。授業のなかで、関連する小課題を2～3題ほど出すことがある。		
授業外学習の指示		事前にmanabaにてシラバスを提示するので、それをみて分からない用語、内容を確認しておくこと。配付資料を中心に授業の復習をおこない、場合によっては参考資料などを読むこと。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用しない。
参考書	
参考URLなど	
その他	